

令和3年度 第2回白根巨摩中学校自己評価書（後期）

令和4年1月11日作成

校長 浅利 司

記述者 教頭 浅利 進

学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中生の育成」

- ・強い体と心をつくる（心身の調和的発達）
- ・すなおに見聞きし、考えて行動する（素直さ、考え意見を持つ力、実践力）
- ・美しいものを愛し、自分で創りだすよろこびを知る（本物・本質志向、創造力）
- ・働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく（貢献、協働、努力、粘り強さ）

取組重点

- 1 学習意欲と確かな学力の向上
 - ①授業規律の徹底
 - ②山梨スタンダードの視点と各種調査結果の分析に基づく授業改善
 - ③定期テストへの取組の充実
 - ④補充発展の時間の効果的な活用
 - ⑤家庭学習の充実
- 2 生徒会活動における「4つのこだわり」の充実・推進
 - ①気持ちの良いあいさつの推進
 - ②無言清掃のさらなる推進
 - ③活動開始・終了時刻の徹底と下校の呼びかけ
 - ④さわやかな身だしなみの徹底
- 3 新学習指導要領の確実な実施と小中一貫教育に向けた取組の推進
 - ①新学習指導要領の実施と検証
 - ②9年間を見通した教育課程の作成
 - ③小中合同研修等の推進

I 全体評価

※A：5点，B：4点，C：2点，D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。1回目に引き続きこの指標を使い学校評価について考えていきたい。また、生徒及び保護者は平均4.0を目標とした。

全20項目中15項目が目標を上回る結果となった。得点分布に関しては以下のとおりである。

4.5以上：15項目，4.4以上4.5未満：3項目，4.2以上4.3未満：1項目，4.0以下：1項目

後期の総合平均は4.6となり、前期自己評価と同様の結果となった。前期よりも向上している項目も多くあり、新型感染症が収束していないとはいえ、後期に多くの行事や取組があり、教師・生徒がその目標達成のために努力した成果を感じていると考えられる。特に「学校運営」の「校務分掌を通して、意欲的に学校運営に参加している」「より良い学校にするために他の教職員と協力し取り組んでいる」の項目は4.9と前期を上回り、自分の分掌に責任を持ち、教職員が一体となった取り組みが行われたと考えられる。また、「教職員としての自覚をもって職務に従事している」の項目は全教職員が「A：当てはまる」と回答し、役割が違って常にも生徒の成長・向上を願いながら指導していこうという意識が高いといえる。今後も共通理解を図りながら全教職員が一丸となりその職責を忠実に果たしていきたい。

学力向上については校内研究を中心に、授業改善・授業力向上に取り組んでいるが、「パソコンの授業での有効的な使用」については課題がある。生徒のアンケートからは「授業が楽しい」という項目は向上しているものの、「授業が分かる」という項目は大きな変化がない。また、保護者アンケートの「子どもは授業の内容がわかっているか」という項目は保護者アンケートの回答中最も低い得点となっている。家庭学習の定着は少しずつではあるが成果は上がっており、家庭での意識も高まっている。基礎学力の定着に力を入れ、小学校との連携も深めながら継続的な学習への意欲向上の取組を行う必要があると考えられる。

今後も感染症予防対策による教育活動への制限・変更は継続することが予想され、さらに学力向上、授業改善について研究していく必要がある。来年度からの小中一貫教育の実施も含め、さらに小学校との連携を深める中で、本校の学校教育目標を基に、現状に満足せず、さらによりよい教育活動を目指して指導していきたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<p>◇領域平均は4.7であり、前期と同じである。しかし、それぞれの項目についてはポイントが高くなり、職務に対する意欲が感じられた。特に「校務分掌を通して学校運営に参画」することと、「他の教職員との協力」する姿勢は顕著である。職員室での様子、教職員一人ひとりの姿勢からも、本校の職員は前向きに学校教育目標の具現化に誠実に努力しているといえる。</p> <p>◇「本年度の重点目標への取組」について、目標数値にやや達していない。教科指導に対する努力はしているものの、なかなか成果が出ない生徒への対応等について課題と考えている教員が多いと考えられる。</p> <p>◇昨年同様、感染症拡大防止のための休校、行事の縮減、学校生活の制限等から生徒に対しても日常の生活を大切に感じさせようとする取組には力を入れていることが分かる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> この状況が次年度も継続することを想定し、重点項目を検討し設定をする。来年度より、小中一貫教育が実施されることを踏まえ、小学校の取組にも共通理解を深め、教職員一人ひとりが、学校経営方針のもと教育目標を達成できるよう、生徒の実態に応じてきめ細かい教育活動を他の教職員と連携しながら、よりいっそう推進していく。 学校全体の教育活動に対して、相互理解のもと組織的に取り組み、PDCAを意識した、工夫と向上を目指し研究を推進する。 各自が勤務効率を考えた働き方についてセルフチェックを行い、ライフワークバランスを意識した勤務の在り方を検討する。また、互いの状況を理解し合い、一人で悩むことの無い開かれた職場環境を作る。同時に、管理職は教職員のメンタルヘルスについて細心の注意を払うよう心がける。
2 教科指導	
達成状況	<p>◇領域平均は4.2であり、前期と同様の結果である。</p> <p>◇「授業改善」や「学習評価」への取組は前期よりも向上し、生徒の様子を考えながら授業に取り組んでいることが分かる。</p> <p>◇教師アンケート「校内研究のもと、深い学びの実現を目指した授業づくりに努めている」は前期よりやや低くなり、授業改善に取り組んでいるものの、成果を含めた実績について課題があり、今後も研究を推進していく必要がある。</p> <p>◇校内研究のテーマである授業での「聴き合う」指導について、生徒アンケートでは「先生や友達の話をしっかり聴くことができたか」の項目の肯定的回答が97%となり、授業の取組への成果が表れてきたことが分かる。</p> <p>◇生徒アンケートの肯定的回答が「学校の授業は楽しい」が87%、「学校の授業がわかる」が88%となり、他の設問よりも数値はやや低いものの、多くの生徒が授業に積極的に取り組んでいると考えられる。しかし、実際に基礎学力に不安のある生徒への対応については今後も検討していく必要がある。</p> <p>◇保護者アンケートの肯定的回答が「お子さんは、授業の内容がわかっていると思うか」は77%で設問中最も低く、「学校は基礎学力定着のための指導をしていると思うか」が91%となっており、学校の指導方法については理解しているものの、成果については課題があると考えていることがうかがえる。</p> <p>◇家庭学習においては、今年度も校内研の取組の一つとして、週末課題（タイアップ・チャレンジ）を行っており、定着してきている。教員の評価も高まり、成果として評価できるようになってきた。生徒の肯定的回答は95%で、タイアップ・チャレンジ以外の家庭学習も前期よりも数値が高くなり、家庭学習の取組自体に積極性が見られる。ただ、保護者のアンケートの値とやや差異が見られるため、生徒の取組の満足度と時間設定については今後も指導していく必要がある。家庭の協力を得る中でさらに検討・改善を行っていく必要がある。</p> <p>◇教師アンケートの「パソコンの授業での有効的活用」については、前期よりも低い結果となった。今年度からスタートし、基本的な使い方について生徒との活用を図ってきたが、さらに応用的な活用については、指導方法について課題があると考えられる。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査や学力把握調査の結果分析を行い、今後も継続的に授業改善への課題を研究していく。</p>

対応	<ul style="list-style-type: none"> ・やまなしスタンダードを基にし、分かりやすい授業改善の取組を推進、学習指導要領に対応した学習指導・学習評価について研究を推進していく。 ・タイ・アップチャレンジを継続すると同時に、「学びの甲斐善八か条」の活用や、家庭との連携、家庭学習の時間の習慣化、取組時間・内容についての改善について研究を進める。合わせて生徒の連絡帳（スマイルライフ、やりとり帳等）や定期試験の学習計画表の取り組み表を活用して計画的に家庭学習を進めるように指導する。 ・今年度の校内研究をさらに推進し、生徒の聴き合う、学び合う活動を大切にした授業を工夫・改善し、さらに今後も続くことを想定した感染症防止を意識した話し合い活動を主体的に行えるよう、生徒の達成感や充実感を味わえるようにする。 ・教師個人の力量を高めるために、互いの授業を参観する機会をできるだけ確保していく。また互いに工夫や改善について話し合うことや、具体的に改善していくポイントについて共通な認識をもつよう、校内研究を活用していく。 ・生徒一人一台パソコンを授業でさらに活用するために、ICT活用に対する教師の授業における研修及び、活用の頻度を高めるような取組を積極的に行う。 ・来年度から実施される小中一貫教育の取組において、これまでよりさらに小学校の教職員との相互理解を深め、9年間を見通したきめ細かい児童生徒の育成を行う。 ・保護者アンケートの数値の結果や記述内容から、基礎学力の定着や家庭学習の定着について、学校への期待は大きいと考える。「補充・発展の時間」の効果的な活用、基礎学力の定着、不断の授業改善に向けて今後も努力したい。
----	---

3 生徒指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇平均得点は4.7で、前期と同様である。本校の教職員は生徒に寄り添い、きめ細かく生徒指導を行っていると考えられる。 ◇生徒アンケート「学校生活は楽しいか」の項目において、前期と同様肯定的回答は91%を超えている。「困ったときに相談できる先生がいるか」については、前期より上回っており、学年によって若干差はあるものの、生徒との関係の構築ができており、教師が生徒に寄り添い、素早く適切な対応がなされていると考えられる。また、保護者アンケート「お子さんにとって、学校は楽しい所だと思うか」も肯定的回答は93%を超えており、多くの保護者からも理解を得て教育活動に取り組んでいると考えられる。 ◇不登校等のケース会議を関係機関や中学校区の小学校と連携して行っている。また、学区内の小学校にも勤務するSC、近隣の未成年の事件等に係るSSを交えた生徒指導支援委員会を定期的に開催し、生徒の生活環境も含めた生徒指導に心がけている。また、生徒とのやり取り帳（連絡帳）や、年5回の心配事アンケート調査と個人面談等により、生徒の様子を見取り、適切に指導している。 ◇保護者アンケート「学校は、子どもの困ったことや悩み事等に、対応していると思うか」の肯定的回答は約93%となっている。ただ、学校での様子の共有については、保護者・生徒のコミュニケーションができていていると感じている割合が、保護者が90%、生徒は約80%とやや差があることから、学校で生徒一人ひとりの様子を注意深く見守り、保護者とのより一層の連携を取る必要がある。
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も全教職員が相互に連携し、学校のきまりや指導重点について共通理解し、組織的な生徒指導を行う。また、学年を問わず報告・相談・記録などを丁寧に行い、必要に応じて関係機関とも連携していく。 ・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、道徳や総合、特別活動などの授業を通し、心の教育をさらに充実させる。さらに、問題を抱える生徒や人間関係について、その情報共有を素早く確実に担任や学年に行い、家庭にも伝えることで、早期に解決していく。 ・感染症対策を行う中で、生徒の自律的活動を促し、仲間外れやいじめの起こらない環境づくりに努める。 ・小学校との連携を密にし、小学校での様子や人間関係を共有し、相談できる体制を構築する。「生活記録ノート・やりとり帳」や「悩み事アンケート」、担任との二者懇談等、日常的な生徒とのコミュニケーションの中から、トラブルを未然に防ぐように対応する。

4 特別活動	
達成状況	<p>◇この項目の平均は4.5で、前期より向上している。2学期は活動の制限や変更があったものの、多くの行事に取り組み、生徒たちと苦労したことで、生徒との一体感をより多く感じたと考えられる。特に学園祭や合唱活動は通常の実施が難しく、取組期間が長期に渡ったこともあり、集中して指導への意識が高まったといえる。この領域の全項目が前期を上回り、教職員の生徒指導への意識の向上が見られたと考えられる。</p> <p>◇生徒アンケートでは、「生徒会活動」「行事への協力」「合唱活動」のいずれにも96%以上の生徒が肯定的評価であった。なかでも「行事はみんなで協力して楽しくできているか」については、約97%以上の肯定意見が回答されている。感染症拡大防止対策の中で苦労しながらも、生徒たちが行事を通して集団に協力しながら目標を達成しようとする心が成長している様子が分かる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も行事の取組や、技能教科の授業内容において縮小や制限があり、教職員、生徒の取組も大変だったが、それを乗り越えようとする意欲が高まり、活動に対してはどれも積極的だったと感じられる。来年度以降も感染症終息の見通しは立たないが、今年度同様、難しい状況を変更・工夫しながら生徒の心身の成長に対して努力を続けていく。また、本校の伝統的な行事を工夫しながら取り組み、本校生徒が特別活動の多くの場面で、意欲的で真面目に取り組み、成果が出たことから、様々な状況下で特別活動を積極的に行うことで、より良い人間関係の構築や日常生活のルールを守ること、社会への貢献についての教育的意義を高めていきたい。 各行事の反省として実施しているアンケートを分析し、来年度の年間計画に行われる行事および生徒会活動全般を通して、多くの生徒が意欲的・主体的に取り組むことができるよう仕組み、この教育環境を維持するためにも、教職員のライフワークバランスへの意識を高め、教職員が疲弊しない取組も視野に入れ、検証・改善していく。

5 健康安全 信頼される学校 他	
達成状況	<p>◇今年度「教職員としての自覚を持って、職務に従事している」は全員（100%）がAと評価し、本校の教職員がきめ細やかに生徒を見取り、教員としての責任と自覚をもって、生徒を育成していると考えられる。</p> <p>◇教員アンケートの領域平均は「健康安全」が4.8、「信頼される学校」が4.9で、感染症防止対策における日常の生徒への健康安全の配慮、過ごしやすい学校生活に対する生徒への細やかな対応、施設の整備についての意識は高いといえる</p> <p>◇保護者アンケート「保護者の相談等に丁寧に対応しているか」「通信・メール等で学校の様子を伝えていると思うか」の設問に94%以上が肯定的回答をしていることから、多くの保護者は相談しやすく学校の様子が伝わりやすい環境だと考えていることが分かる。</p> <p>◇保護者アンケート「学校は子どもの安全に配慮し、安全管理及び安全指導に努めていると思うか」の項目について、肯定的回答は約98%であることから、保護者にも協力を得る中で、本校教職員が子どもの心身の安全に配慮しながら教育活動に取り組んでいると考えていることが分かる。</p> <p>◇生徒アンケート「家の人と学校生活の様子などについて話をするか」は4.1で、全項目の中でも低い評価になっている。否定的回答は21%で5人に1人は家庭での保護者とのコミュニケーション不足だと考えられる。この項目は例年低い項目となっており、それぞれの家庭の事情もあると思うが、学校での様子について各家庭との連携を深める取組を行っていく必要がある。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全管理は、教職員の学校の設備や状況の把握、様々な危機的な状況を想定する意識を高める必要がある。日々の教育環境の点検、生徒の様子をきめ細かく見取るなど、常に全教職員が情報共有を行いながら教育活動に取り組む。 学校生活において心配な状況のある生徒について、家庭環境についても把握し、状況に応じて全職員に情報共有し、組織的な生徒指導を行っていく。また、生徒と保護者のコミュニケーションを図る方策についても連絡帳や通信などを通して、各家庭との情報共有にも使用できるよう理解を得る。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・部活動や特別活動の指導において，安全対策や指導方法について，事後に反省・検討・改善を行い，常に改善すべき点や努力すべき点を検討していく。・「学年だより」「給食・保健・図書・進路だより」「学校メール」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに，それらを通して家庭との連携を密にし，生徒の健全育成に向けて一層努力していく。・今後も地域からの連絡や支援を大切にし，本校の「PTA」「体育・教育後援会」等の組織を積極的に活用したり，市の青少年育成団体等と協力しながら地域全体で子どもを育てる意識を醸成する。 |
|--|